

## 資料紹介

## 家具図録文献目録 II

明治・大正・昭和戦前期

新井 竜治

本稿は、明治・大正・昭和戦前期の家具図録並びに文献目録の第二報である。第一報では以下の三部に分類して報告を行なった。即ち、第一部「図録・型録（カタログ）・雛形・図案」、第二部「業界史・組合史・社史」、第三部「叢書・雑誌・その他」である。これに対して、第二報である本稿では、特に第二部と第三部についての追加報告を行なう。尚、第一部についての追加報告は、第Ⅲ集以降とさせていただきたい。本稿が各研究部会並びに学会員の皆様の研究の一助になれば幸いである。

## 一 図録・型録（カタログ）・雛形・図案

第一部については、第Ⅲ集以降で追加報告を行なう予定である。

## 二 業界史・組合史・社史

## (一) 業界史

『スチール家具産業史』 八木朝久編著 一九七六年

## 近代家具

本著は大きく三部に区分されている。第一部「スチール家具産業発展の軌跡」には、大正時代から昭和恐慌、戦時体制下、終戦後、高度経済成長期までのスチール家具産業の発展の軌跡が記されている。まず、スチール家具産業は大正時代初期に長崎の三菱造船所に始まったこと、そして戦前に到達したピークとして、佐藤巳之吉著『金属着色塗装法及鋼製家具製作法と其設計図』（中央工学会／昭和八年）の充実した内容が紹介されている。そして戦後は、金属製家具メーカーの団体として日本金属家具工業協同組合が結成されたこと、それが後に鋼製家具事務器工業会、日本金属家具工業組合へと変遷した様子が詳述されている。第二部「スチール家具産業の諸問題」では、中小企業近代化促進法、日本工業規格（JIS）、鉄鋼業界、対米貿易、労働組合、デザイン、物品税、事務機器との関連等が論じられている。第三部「金庫産業」では、金属製家具メーカーと関連が深い金庫の歴史と性能及び金庫製造業の近代化促進法指定の問題が論じられている。

## (二) 家具メーカー社史

明治、大正、昭和戦前期に創業した家具メーカーの中で、社史が発行されているものを以下に列挙した。内容は各社各様である。概して社業の発展を記したものが多く、自社製品の変遷が記録されたものは少ない。また天童木工の社史については、一八九〇年以降の近代デザイン発展史年表に併記する形

式で、自社年表を記載している。尚、本稿では主に木製家具メーカーの社史について報告した。しかし戦後創業した家具メーカーの社史は除いた。それから戦前に創業した家具メーカーであっても、ベッドメーカー及び金属製家具メーカーの一部は除いた。

『近代デザイン年譜―天童木工五十年史』天童木工編 一九九三年 天童木工

『コスガ百十年の歩み』コスガ社史編纂委員会編 一九七三年 コスガ

『コスガ百二十年史』コスガ社史編纂委員会編 一九八二年 コスガ

『カリモクグループのあゆみ』カリモク社史編纂委員会編 一九八六年 刈谷木材工業

『創業50年史―洋家具と共に歩んだ半世紀』若宮清行・創業50年史編纂委員会編著 一九八二年 マルニ木工

『飛驒産業株式会社七十年史』飛驒産業編 一九九一年 飛驒産業

『八十年史』秋田木工編 一九九〇年 秋田木工

『イトーキのあゆみ―イトーキ80年史』社史編纂委員会編 一九七〇年 イトーキ

『イトーキ100年史』イトーキ100年史編集委員会編 一九九一年 イトーキ

## (三) デパート社史

明治・大正・昭和戦前期における百貨店は、家具・室内装飾の流行を担う重要な存在であった。後述す

る『近代家具裝飾資料』には昭和戦前期に東京地区百貨店各社において開催された新作家具展示会の様子が報告されている。以下は主要百貨店各社の社史一覧である。主要な社史は網羅したが、一部取りこぼしがあることをご容赦いただきたい。尚、百貨店の社史は家具・室内裝飾に限ったものではないので、家具・室内裝飾に関する情報が殆どない場合もある。しかし百貨店の家具部門が家具メーカーとして独立した高島屋工作所や「松坂屋」誠工舎の社史には、家具に特化した記録が所収されている。

① 三越

『大三越の歴史』小松徹三著 一九四一年 日本百貨店調査所

『株式会社三越85年の記録—一九〇四—一九八九』

三越編 一九九〇年 三越

『株式会社三越100年の記録—一九〇四—二〇〇四—デパートメントストア宣言から100年』三越本社編 二〇〇五年 三越

② 高島屋

『大阪高島屋四十年史』池澤丈雄編 改訂第二版

一九三八年 大阪高島屋

『高島屋百年史』高島屋編 一九四二年 高島屋

『高島屋135年史』高島屋135年史編集委員会編 一九六八年 高島屋

『高島屋150年史』高島屋150年史編集委員会編 一九八二年 高島屋

『快適環境の創造—高島屋工作所50年史』高島屋

工作所50年史編集委員会編 一九八九年 高島屋工作所

『高島屋美術部80年史』高島屋美術部80年史編集委員会編 一九九二年 高島屋

『高島屋「貿易部」美術染織作品の記録写真集』廣田孝著 二〇〇九年 京都女子大学

③ 松坂屋

『松坂屋三百年史—日本百貨店総覧 第二巻』百貨店商報社編 一九三五年 百貨店商報社

『上野松坂屋200年史』上野松坂屋200年史編集委員会編 一九六八年 松坂屋上野店

『松坂屋50年史』松坂屋50年史編集委員会編 一九六〇年 松坂屋

『松坂屋60年史』松坂屋60年史編集委員会編 一九七一年 松坂屋

『松坂屋70年史』松坂屋70年史編集委員会編 一九八一年 松坂屋

『誠工舎創業60年史—六十年の軌跡』誠工舎六〇年史編集委員会 一九八五年 誠工舎

④ 白木屋

『白木屋三百年史』白木屋編 一九五七年 白木屋

『白木屋文書目録—東京大学経済学部所蔵』東京大学経済学部図書館文書室編 一九八六年 東京大学

『松屋百年史』社史編集委員会編 一九六九年 松屋

⑤ 松屋

『松屋百年史』社史編集委員会編 一九六九年 松屋

⑥ 大丸

『大丸二十年史』日本百貨店通信社編 一九四〇年 日本百貨店通信社

『大丸三十年記念史—株式会社創立』デパート通信社編 一九五一年 デパート通信社

『大丸二百五拾年史』大丸二百五拾年史編集委員会編 一九六七年 大丸

⑦ 伊勢丹

『伊勢丹七十五年の歩み』菱山辰一著・伊勢丹創業七十五周年社史編集委員会編 一九六一年 伊勢丹

『新世紀への翔ぎ—伊勢丹100年のあゆみ』創業100周年記念事業社史編集実行委員会編 一九八六年 伊勢丹

『伊勢丹百年史—三代小菅丹治の足跡をたどって』伊勢丹広報担当社史編集事務局編 一九九〇年 伊勢丹

⑧ そごう

『株式会社そごう社史』株式会社そごう社長室弘報室編 一九六九年 そごう

『創業百五拾年株式会社そごう小史』そごう小史編集委員会編集 一九七九年 そごう

※以下は戦後の内容だけであるが参考までに記す。

⑨ 小田急百貨店

『小田急百貨店25年のあゆみ』小田急百貨店編 一九八八年 小田急百貨店

⑩ 東武百貨店

『グッドデパートメント東武百貨店30年の歩み』東武百貨店社史編集室編 一九九三年 東武百貨店

⑪ 西武百貨店

『セゾンの歴史—変革のダイナミズム(上巻・下巻)』  
由井常彦編 一九九一年 リブレポート

⑫ 京王百貨店

『京王百貨店20年史』京王百貨店20年史編纂委員編 一九八四年 京王百貨店

⑬ 阪急百貨店

『株式会社阪急百貨店25年史』株式会社阪急百貨店社史編集委員会編 一九七六年 阪急百貨店

『株式会社阪急百貨店50年史』50年史編集委員会編 一九九八年 阪急百貨店

⑭ 近鉄百貨店

『四日市近鉄百貨店創業二十五周年社史—日に新たに』四日市近鉄百貨店編 一九八五年 近鉄百貨店

三 叢書・雑誌・その他

『近代家具裝飾資料』高梨由太郎(第一〜二二輯)・高梨勝重(第二二〜四七輯)著 一九三六〜四四年 洪洋社

一九三五(昭和十)年から一九四三(昭和十八)

年にかけて東京地区の百貨店に於いて開催された新作家具展示会の報告写真集成である。洪洋社の広告ページの解説によれば、『木材工藝叢書』(拙稿『家具道具室内史』第二号一〇三頁参照)の姉妹刊行物として発行された。また高梨勝重氏については、『洪洋社主・昭和五年早高工建築科卒・建築工藝美術関係図書出版を経営』(第四五・四六輯(合併輯))との記載がある。尚、洪洋社と高橋由太郎氏について

は、藤森照信・初田亨・藤岡保洋編著『写真集幻景の東京—大正・昭和の街と住い』(『失われた帝都東京』改題)(一九九八年/柏書房)の「はしがき」に藤岡保洋氏による詳しい解説があるので、そちらをご参照いただきたい。

今回『近代家具裝飾資料』(全四七輯)について、公共図書館、大学図書館、古書店在庫の全てを当たったが、所在が確認できない輯が数点あった(第九・四十・四一・四四輯の四冊)。戦災により焼失した可能性が高い。これまで、既往の近代家具史研究・百貨店発展史研究によって『近代家具裝飾資料』は参照されてきたが、全輯の内容を記した一覧表は存在していない。本稿では各輯の出版情報と合わせて、掲載された新作家具展示会の主題・開催場所・開催時期を整理して以下に記した。

それから『近代家具裝飾資料』のデータを、『芸ニユース』や百貨店各社の社史の記録等で補充することによって、当該期間(昭和戦前期)の東京地区百貨店における新作家具展示会の開催状況を一覧表(表1)にまとめた。

尚、『近代家具裝飾資料』にみる各百貨店の新作家具のスタイル的傾向については、拙稿『昭和戦前期の百貨店における新作家具展示会にみる家具スタイル』(二〇一〇年度家具道具室内史学会大会研究発表梗概)を参照していただきたい。

□一九三六(昭和十一年)発行分

『新設計室内裝飾展集(一)』(第一輯)一九三六年二月発行、於・東京日本橋三越、会期一九三五(昭和十)年十一月。

和十)年十一月。

『新様式と國風家具展集』(第二輯)一九三六年四月発行、於・松坂屋・白木屋、会期一九三五(昭和十)年。

※松坂屋/國風家具、白木屋/近代的洋室用家具。

『新興漆藝家具創作展集』(第三輯)一九三六年五月発行、於・日本橋高島屋、会期一九三六(昭和十一年)四月。

『歐米の』最近の居間家具』(第四輯)一九三六年六月発行。※独仏英米の居間。

『新作洋家具陳列會集』(第五輯)一九三六年七月発行、於・東京日本橋白木屋、会期一九三六(昭和十一年)五月。※「夏の室内装備」特集。藤家具収録。

『歐米家具作品集(一)』(第六輯)一九三六年九月発行。※一九三四、三六年の海外の新作事例を歐米の雑誌より抜粋して掲載。

『國風家具展集(一)』(第七輯)一九三六年十一月発行、於・上野松坂屋、会期一九三六(昭和十一年)十月。

『新設計室内裝飾展集(二)』(第八輯)一九三六年十二月発行、於・日本橋三越本店、会期一九三六(昭和十一年)十一月。※家具設計者名記載有。

□一九三七(昭和十二年)発行分

『歐米家具作品集(二)』(第九輯)一九三七年発行。【今回未調査分】

『レイモンド家具作品集』(第十輯)一九三七年三月発行。

『趣味の和家具展集(一)』(第十一輯)一九三七年五月発行、於・日本橋三越本店、会期一九三六(昭和十)年十一月。

『趣味の和家具展集(二)』(第十二輯)一九三七年五月発行、於・日本橋三越本店、会期一九三六(昭和十)年十一月。

『趣味の和家具展集(三)』(第十三輯)一九三七年五月発行、於・日本橋三越本店、会期一九三六(昭和十)年十一月。

『趣味の和家具展集(四)』(第十四輯)一九三七年五月発行、於・日本橋三越本店、会期一九三六(昭和十)年十一月。

和十二)年十一月。

『洋家具逸品會展觀集(一)』(第十二輯) 一九三七年六月發行、於・日本橋白木屋 会期一九三七年(昭和十二)年四月。

『創作洋家具展集』(第十三輯) 一九三七年八月發行、於・日本橋高島屋、会期一九三七年(昭和十二)年四月。 ※展示会名

「第五回創作「洋」家具展(第一、十一室)」。

「二つの家具展作品集「一」」(第十四輯) 一九三七年九月發行、会期一九三六年(昭和十二)年十一月。

①「新興潤葉樹家具試作展」於・東京丸ノ内東京商工奨励館、東京國有林産物販売所主催

②「東京高等工藝学校別科創作展」

『國風家具展集「付・紫江會指物展」(一)』(第十五輯) 一九三七年十二月發行、於・上野松坂屋、会期一九三七年(昭和十二)年十一月。

□一九三八年(昭和十三)年發行分

『新設計室内裝飾展集(三)』(第十六輯) 一九三八年二月發行、於・日本橋三越本店、会期一九三七年(昭和十二)年十一月。 ※竹製カンチレバー椅子有。家具設計者名記載有。

『趣味の和家具展集(二)』(第十七輯) 一九三八年三月發行、於・三越本店、会期一九三七年(昭和十二)年十月。 ※展示会名「三匠会」。

東京日本橋・白木屋	東京銀座・松屋	その他
※ S7.12.16火災		
	◆[室内装美展](神野)	
◆[家具逸品会](神野)		
◆[新様式家具展](近家装 02b)		
◆新作洋家具陳列會(近家装 05)		◆新興潤葉樹家具試作展(近家装 14) ◆東京高等工藝学校別科創作展(近家装 14)
◆洋家具逸品會展(近家装 12)		
◆洋家具逸品會展 「夏向きの室内裝飾」(近家装 19) ◆洋家具小品展(工芸指導所後援)(工芸N)	◆[新作]和洋家具展(近家装 23)	
◆洋家具逸品會[展](近家装 34b)	◆洋家具試作展(近家装 26b) ◆新作和洋家具展(近家装 31)	◆実用洋家具(東横)(近家装 27a)
◆洋家具逸品會展(近家装 36) ◆和洋家具陳列展(近家装 38)		◆丹麗會家具展(新宿伊勢丹)(近家装 35a) ◆新作洋家具陳列會(渋谷東横)(近家装 35b)
S31 東横[東京急行]の支配下へ		

史』,世界思想社,1999年,155-177頁 【ペザント】:林二郎『ペザント・アートへ:木工生活八十年』住まいの図書館出版局,1989年

『歐米家具作品集(三)』(第十八輯)  
一九三八年五月発行。※独、仏、伊、英、米の家具。

『洋家具逸品會展觀集(二)』(第十九輯)  
一九三八年七月発行、於・日本橋白木屋  
会期一九三八(昭和十三)年五月。※「夏  
向きの室内裝飾」特集。藤家具収録。

『工精會家具展集(一)』(第二十輯)  
一九三八年九月発行、於・日本橋高島屋  
会期一九三八(昭和十三)年五月。※工精  
會/會長・岡田三郎助(畫伯)、副會長・  
大隅為三、會員・梶田惠、林二郎、渡邊明。  
『歐米家具作品集(四)』(第二一輯)  
一九三八年十月発行。※北歐の成形合板家  
具収録。

『趣味の和家具展集(三)』(第二二輯)  
一九三八年十二月発行、於・日本橋三越本  
店、会期一九三八(昭和十三)年十月。※  
展示會名「三匠會」。

□一九三九(昭和十四)年發行分  
『新作』和洋家具展集「二」(第二三輯)  
一九三九年一月発行、於・銀座松屋、会期  
一九三八(昭和十三)年十月。※藤・竹製  
家具有。

『新設計室内裝飾展集(四)』(第二四輯)  
一九三九年二月発行、於・日本橋三越本店  
会期一九三八(昭和十三)年十一月。  
『國風家具展集(三)』付・紫江會指物展(第

表1 昭和戦前期の東京地区百貨店における新作家具展覧会の開催状況

西暦	年号	東京日本橋・三越本店	日本橋・高島屋東京店	東京上野・松坂屋
1932	昭和7年	◆新設計室内装備展(工芸N 1-12)		◇[家具展観](推定)
1933	昭和8年		※ S8.3.20 東京店(日生館)新築開店 ◆[第1回]東京高島屋創作洋家具展(社史)	◆[家具展観](神野)
1934	昭和9年		◇[第2回創作洋家具展](推定)	◆新國風家具展覧會(工芸N 4-2)
1935	昭和10年	◆新設計室内裝飾展(近家装01)	◇[第3回創作洋家具展](推定)	◆[國風家具展](近家装02a)
1936	昭和11年	◆新設計室内裝飾展(近家装08) ◆趣味の和家具展(近家装11)	◆新興漆藝家具創作展(近家装03) ◇[第4回創作洋家具展](推定) ◆林二郎第1回個展(ペザント)	◆國風家具展(近家装07)
1937	昭和12年	◆新設計室内裝飾展(近家装16) ◆趣味の和家具展(近家装17)	◆第5回創作洋家具展(近家装13)	◆國風家具展(近家装15a) ◆紫江會指物展(近家装15b)
1938	昭和13年	◆新設計室内裝飾展(近家装24) ◆趣味の和家具展「三匠會」(近家装22) ◆實用家具展覧會(工芸N 13-6)	◆第1回工精會家具展 (梶田惠、林二郎、渡邊明)(近家装20) ◇[第6回創作洋家具展](推定)	◆國風家具展(近家装25a) ◆紫江會指物展(近家装25b)
1939	昭和14年	◆新設計室内裝飾展(近家装32) ◆趣味の和家具展「三匠會」(近家装33) ◆三越家具部室内裝飾展観(工芸N)	◆[第6/7回]創作洋家具展(近家装26a) ◆夏の家具展(近家装27b) ◆第2回工精會家具展 (梶田惠、林二郎、渡邊明)(近家装28) ※ S14.6(株)高島屋工作所設立(大阪)	◆國風家具展(近家装30a) ◆紫江會指物展(近家装30b)
1940	昭和15年		◆[第7/8回]新設計洋家具展(近家装34a) ◆[第3回]工精會家具展 (梶田惠、林二郎、河井寛次郎)(ペザント)	
1941	昭和16年	◆實用洋家具作品(近家装40) ◆東京工藝綜合展覧會第二部 (近家装42-43)	◆[第8/9回]新時代洋家具展(近家装39) ◆木工藝術家協會作品(近家装41) ◆林二郎第2回個展(ペザント)	
1942	昭和17年	◆實用洋家具作品(近家装44) ◆家具及工藝品綜合展(近家装45-46) 「三創會」+「日本民藝協會同人」	◇[第9回創作洋家具展](推定)	
1943	昭和18年		◆第10回新作洋家具展(近家装47)	
1944	昭和19年	※ S19(株)三越製作所へ		
1945	昭和20年			
備考		M43 本店家具加工部設立 T12 富士屋家具製作所として独立 (関東大震災後、東六郷に設置)	S3 ~ 高島屋京橋店: 新興洋家具展(神野)	T14 誠工舎設立(名古屋) S3 株式会社誠工舎へ S9 「家具展観」→「國風家具展」 戦後 →「家具サロン展」

■出典凡例(括弧内) 【近家装】:『近代家具裝飾資料』 【工芸N】:『工芸ニュース』 【神野】:神野由紀「百貨店と室内裝飾」,『百貨店の文化』

二五輯)一九三九年四月発行、於・上野松坂屋、会期一九三八(昭和十三)年十一月。※家具設計者名記載有。  
『二つの家具展集(二)』(第二六輯)一九三九年五月発行。

①「創作洋家具展」於・日本橋高島屋百貨店、会期不明。※三越のものよりも改良された竹製方ンチレバー椅子収録有。

②「洋家具試作展」於・銀座松屋百貨店、会期不明。  
『實用洋家具及夏の家具展集』(第二七輯)一九三九年七月発行。

①「新作實用洋家具陳列會」於・東横百貨店、会期不明。

②「夏の家具展」於・高島屋百貨店、会期不明。  
『工精會家具展集(二)』(第二八輯)一九三九年八月発行、於・日本橋・高島屋、会期一九三九(昭和十四)年五月。※展示会名「第2回工精會家具展」。  
『歐米家具作品集(五)』(第二九輯)一九三九年十月発行。

『國風家具展集(四) 付・紫江會指物展』(第三十輯)一九三九年十二月発行、於・上野松坂屋、会期一九三九(昭和十四)年十月。※家具設計者名記載有。  
□一九四〇(昭和十五)年發行分

『新作和洋家具展集(二)』(第三一輯)一九四〇年二月発行、於・銀座松屋、会期一九三九(昭和十四)年秋。

『新設計室内裝飾展集(五)』(第三二輯)一九四〇年四月発行、於・日本橋・三越本店、会期一九三九

(昭和十四)年秋。

『趣味の和家具展集(四)』(第三三輯)一九四〇年五月発行、於・日本橋・三越本店、会期一九三九(昭和十四)年十月。※展示会名「三匠會」。

『二つの家具展集(三)』(第三四輯)一九四〇年七月発行。

①「新設計洋家具展」於・高島屋東京店、会期一九四〇(昭和十五)年三月。

②「洋家具逸品會展」於・白木屋本店、会期一九三九(昭和十四)年十月

『新作家具作品集(第三五輯)』一九四〇年八月発行。

①「丹麿會家具展」於・伊勢丹百貨店、会期不明。

②「新作洋家具陳列會」於・東横百貨店、会期不明。  
『洋家具逸品會展觀集(三)』(第三六輯)一九四〇年十月発行、於・日本橋白木屋、会期不明。

『近代洋家具作品集(第三七輯)』(獨逸)一九四〇年十二月発行。

□一九四一(昭和十六)年發行分  
『和洋家具陳列展集』(第三八輯)一九四一年一月発行、於・日本橋白木屋、会期不明。

『新時代洋家具展集』(第三九輯)一九四一年五月発行、於・日本橋高島屋、会期一九四一(昭和十六)年三月。

『實用洋家具作品集(二)』(第四十輯)一九四一年發行、於・三越、会期不詳。【今回未調査分】。

『木工藝作家協會作品集』(第四一輯)一九四一年發行、於・高島屋、会期不詳。【今回未調査分】。

□一九四二(昭和十七)年發行分

『室内構成と家具作品集』(第四二輯・第四三輯「合併輯」)一九四二年一月発行、於・三越、会期一九四一(昭和十六)年十月。※展示会名「東京工藝綜合展覽會第二部」。

『實用洋家具作品集(二)』(第四四輯)一九四二年発行、於・三越、会期不詳。【今回未調査分】。

□一九四三(昭和十八)年發行分  
『家具及工藝品綜合展覽觀集』(第四五・四六輯「合併輯」)一九四三年九月発行、於・三越、会期一九四二(昭和十七)年十一月。※展示会名「三創會」/新進工藝作家集團+日本民藝協會同人。

□一九四四(昭和十九)年發行分  
『新作洋家具展集』(第四七輯)一九四四年一月発行、於・高島屋、会期一九四三(昭和十八)年。※「第十回新作洋家具展覧會」

※「近代家具裝飾資料」のこれ以降の発刊については不祥であるが、戦火が激しくなったので第四七輯をもって終了したと考えられる。尚、洪洋社の事務所兼住宅は昭和二十年の空襲で焼け、同社内にあつた資料はすべて灰燼に帰してしまつた。

『家具寫真集』 洪洋社編輯部(高梨由太郎)編著 一九三二〜三四年 洪洋社

『近代家具裝飾資料』(一九三五〜四四年)が発刊される前年までの三年間に洪洋社から発行された当時の家具写真を集めたものである(全十六巻)。

殆ど海外の事例のように見受けられるが、カフエーの家具(巻十一・十三)については、国内の事例で

- あることが解説から判る。『カフェーの家具(一)』(巻十一)には、東京新橋銀座パレス、新宿カフェー・クロネコ、銀座赤玉分館、渋谷カフェー・リオ等の室内装飾と家具の写真が掲載されている。また『カフェーの家具(二)』(巻十三)には、銀座カフェー・マル、銀座カフェー・ナナ、銀座白樺、銀座令嬢パレス、渋谷サロン・アド・マネキン、上野淑女パレス等の室内装飾と家具の写真が掲載されている。
- 『机』(巻一) 一九三二年九月
- 『椅子・卓子(一)』(巻二) 一九三二年十一月
- 『椅子・卓子(二)』(巻三) 一九三二年十二月
- 『椅子・卓子(三)』(巻四) 一九三二年十二月
- 『書棚・茶卓子・小物臺・花卉棚』(巻五) 一九三三年一月
- 『戸棚―什器戸棚衣服戸棚飾棚筆筒』(巻六) 一九三三年三月
- 『食堂と台所の家具』(巻七) 一九三三年四月
- 『寝臺と化粧臺』(巻八) 一九三三年五月
- 『子供室・ベランダ・庭園の家具』(巻九) 一九三三年六月
- 『商店の家具』(巻十) 一九三三年八月
- 『カフェーの家具(一)』(巻十一) 一九三三年九月
- 『和家具と折衷の家具(一)』(巻十二) 一九三三年十一月
- 『カフェーの家具(二)』(巻十三) 一九三三年十二月
- 『和家具と折衷の家具(二)』(巻十四) 一九三四年四月
- 『椅子・卓子(四)』(巻十五) 一九三四年六月
- 『事務机』(巻十六) 一九三四年九月
- 『建築寫真類聚』建築寫真類聚刊行會編 一九一五〇—一九四三年 洪洋社
- 前述した藤森照信・初田亨・藤岡保洋編著『写真集 幻景の東京―大正・昭和の街と住い』(『失われた帝都東京』改題) (一九九八年/柏書房) は、建築寫真類聚刊行會編輯・洪洋社発行の『建築寫真類聚』の中から、第一部「街」(映画館・劇場・遊園地・美容院・理髪店・カフェー・喫茶店・飲食店・酒場・百貨店・衣料品店・生活洋品店・趣味の店・装飾の店・食料品店)と第二部「住い」(洋風志向・住宅改良・和風の住宅・和洋折衷・集合住宅)について、建築・住居の用途別に再編集したものである。実は、この『建築寫真類聚』には、家具・室内装飾だけが特集された輯があつた。以下にそれらを列記する。
- 『家具(一)』(第二期第四輯) 一九一八年
- 『家具(二)』(第二期輯不祥) 一九二〇年
- 『家具(三)』(第四期第十六輯) 一九二四年
- 『文化住宅の家具(一)』(第四期第六輯) 一九三三年
- 『新時代の家具』(第五期第四輯) 一九二五年
- 『室内装飾(一)』(第二期第十輯) 一九二〇年
- 『室内装飾(二)』(第二期第十一輯) 一九二〇年
- 『室内装飾(三)』(第二期第十二輯) 一九二〇年
- 『室内装飾(四)』(第六期第一輯) 一九二七年
- 『室内装飾(五)』(第六期第八輯) 一九二八年
- 『新しい室内意匠』(第六期第二四輯) 一九二九年
- 『和風住宅の室内構成(一)』(第八期第七輯) 一九三二年
- 『新興住宅の室内構成(一)』(第八期第十六輯) 一九三五年
- 『新興住宅の室内構成(二)』(第十期第四輯) 一九三八年
- 『和風住宅の室内構成(二)』(第十期第十八輯) 一九三九年
- おわりに
- 明治期家具室内装飾研究部会及び職人研究部会では、明治・大正・昭和戦前期における家具の製造・流通・消費の歴史研究の手掛かりとして、当該時期の図録・型録(カタログ)・雛形・図案、業界史・組合史・社史、叢書・雑誌等を渉猟してきた。本稿では特に、業界史・組合史・社史、叢書・雑誌等を中心に、それらの書誌情報を報告した。今後、各史料の詳細な検討、他の史料との比較考察などが行われることが期待される。またこの目録に追加すべき史料をご存知の方からご指摘、ご教示を賜れば幸いです。尚、本稿は明治・大正・昭和戦前期を対象としているので、江戸時代以前及び昭和戦後期以降の文献史料については、一部例外の他は除外した。
- (あらい りゅうじ・共栄大学)